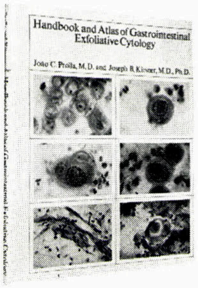
□書　評□

Handbook and Atlas of Gastrointestinal Exfoliative Cytology

著：João C. Prolla, M. D. and Joseph B. Kirsner, M. D., Ph. D.



愛知県がんセンター　第1内科
春日井 達 造

João C. Prolla, Joseph B. Kirsner両博士著 Handbook and Atlas of Gastrointestinal Exfoliative Cytology が The University of Chicago Pressから出版された．私が先ず第1に思い出したのは約20年前胃内視鏡に足を踏みいれた当初唯一の胃内視鏡の参考書，否バイブルとして何回もくりかえし熟読した R. Schindler 博士の不朽の名著 Gastroscopy の出版元が University of Chicago Press であったことである．

シカゴ大学消化器内科は W. L. Palmer 教授以来20数年に亘り多数の細胞診研究者をそだて，消化器細胞診に関しては数多くのユニークな業績を発表し，Rubin, Raskin, Klayman, Barton, Taebel 博士らのすぐれた指導的消化器細胞診学者を輩出，米国は勿論世界の消化器細胞診のメッカであった．私どもも小林，吉井，服部博士らを派遣し，彼等と協同研究をつづけて来た．

Prolla 博士はシカゴ大学消化器内科の主任教授であった Kirsner 博士のまねきにより再度シカゴ大学へ赴任し，Kirsner 教授のもとで Norland 博士の後を襲って消化器細胞診研究室の Director となり，細胞診の実際，研究開発と後進の指導にあたって来た．現在はシカゴ大学を辞してブラジルのポートアレグレ大学医学部の助教授の職にある．

本書では，第1章に消化器剝離細胞診の歴史的背景をのべ，第2章は消化器剝離細胞診手技につき，細胞採取法，各種染色法，観察所見の判読記録法をのべ，第3章においてはシカゴ大学における食道洗滌細胞診，胃洗滌細胞診，食道，胃直視下細胞診，胃癌集団検診における細胞診応用の有用性，十二指腸ドレナージ（セクレチンテスト）と細胞診，十二指腸ドレナージ（コレシストカイニン胆ドレナージ）及び大腸細胞診に関する広範な経験と成績をのべ，長期 follow-up によりこれら成績の評価を行なっている．最終の第4章では細胞診における悪性細胞の criteria，消化管粘膜の良性及び悪性剝離細胞の形態，消化管悪性リンパ腫細胞と Reactive Lymphoreticular Hyperplasia の細胞診について詳述し，末尾に200有余の消化管剝離細胞の美麗なカラー写真よりなる細胞形態学アトラスを集録している．

更に著者らは研究者の便宜のため300余の参考文献を集めており，普通欧米出版の医学書にみられがちな，わが国文献の無視と切り棄てがなく，すぐれた日本文献は比較的忠実に拾いあげてある．勿論著者らが邦文文献に直接目を通したとは思われないが，日本人医師を通してこれらの文献の存在を知ったのだろう．

さて，わが国消化器細胞診の現況をみると6，7年前とは全く様相を異にし，ファイバースコープの開発改良と手技の進歩により胃は勿論，食道，十二指腸，結腸，直腸から小腸にいたるまで，直視下生検が盲点なしに容易に実施され，その正診率は98%に達し常に95%を下らず，直視下細胞診のそれに比肩し，あるいは上回るにいたった．従って，現在，これら消化管悪性腫瘍に対しては，細胞診は生検に first choice の座をゆずり，2nd choice となり，症例により例外的に実施されるに過ぎない．

著者らは従来のスタンダード法による十二指腸膵胆道細胞診で182例中陽性107例，陽性率58.7%の成績をのべているが，私どもの現在，生検実施の困難な膵胆道系悪性腫瘍の乳頭挿管による直接採液細胞診を検討しているが，その正診率は60%前後にとどまっている．今後この方面の細胞診は重要で本書に学ぶところが多いと思う．

米国は言うに及ばず世界のトップの座を占めてきた消化器細胞診研究室における20余年に亘る長い経験と広範な成績に基づいて記述された本書は病理，細胞診，消化器並びに外科の専門家さらに癌の研究者，細胞診に興味をもつインターン生や学生の必携の書になるであろう．主として欧米における消化器剝離細胞診の発展のあとをたどり，その現況を知る上に好個な著書であるばかりでなく，それにも増して多数の美麗な消化器癌剝離細胞の大形カラー写真が本書の一大特色として私どもの眼を奪わずにはおかない．消化器細胞診を志すものの座右の書として推めたい．

(The University of Chicago Press 社刊)

★　★　★

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2012
2026/09/23 18:51:35